

千葉市臨港消防署地質調査委託地質柱状図(NO. 1)

調査地点  
調査年月日 昭和53年7月3日~7月5日

標高  
孔内水位 G.L(-) 1.70m

標高 m	層厚 m	柱状 図	色調	地質名	観察	相対 密度	相対 稠度	標準貫入試験					採取 方法	採取 深度 m					
								深度 m	N 値 回/cm	10cm毎の 打撃回数					N 値				
								10	20	30	0 10 20 30 40 50								
1			褐灰色 緑黄灰色	シルト質微細砂	0.15m付近逆互層 多く極密全般に締 まり状態にあるが 3.00m付近よりドロ ドロ状態に極緩 下部10cm粘土層	中 中	極緩	1.15	14/30	5	4	5							
2								1.45	13/30	3	5	5							
3	3.35	3.35						2.15	7/30		1/20	6/10							
4			黒灰色 暗緑灰色		全般にシルト含み 微細砂多く混えり 貝殻混入所々多く 挟む。	中		3.45	19/30	5	7	7							
5			黄灰色					4.15	25/30	7	8	10							
6			黄緑灰色					4.45	23/30	8	7	8							
7								5.15	23/30	7	8	8							
8								5.45	23/30	8	8	7							
9								6.15	21/30	6	7	8							
10			暗灰色	シルト混り細砂	10.35m付近より極 く薄くシルト層 (10mm~30mm)多く 挟みレンズ状に挟む 部分もあり不均質	中 緩		6.45	11/30	4	3	4							
11								7.15	11/30	4	2	5							
12								7.45	8/30	3	2	3							
13			暗青灰色		13.00m付近均質 と認められる。以下又 不均質の状態に なり。シルト層挟む。	中 緩		7.75	24/30	7	8	9							
14			暗灰色					8.15	4/35	2	1	1							
15								8.45	3/33	1	1	1							
16	16.75	13.40						8.75	3/35	1	1	1							
17	17.50	0.75	暗灰色	砂混り シルト質粘土	下部シルト混り細砂 層。			9.15	1/45		1/45						○-1	17.00 50/50 17.50	
18					上部極薄く砂層 挟む。 貝殻混入。 極軟弱な状態に ある。		極軟	9.45	1/45		0/27	1/18						○-2	19.00 67/67 19.67
19								10.15	1/45										
20			暗灰色	シルト質粘土	中頃よりベネ試料 開くとウロコ状態 に割れる。			10.45	1/39		1/39						○-3	21.00 57/57 21.57	
21								10.75	1/34		1/34						○-4	23.00 51/51 23.51	
22					下部サンプリングの中 で層変る。		極軟	11.15	9/30	2	3	4						○-5	25.00 30/30 25.30
23	25.25	7.75	黒褐色	腐植土質粘土	全般に腐植物混 入。少量の砂混え る。		硬	11.45	8/30	3	2	3							
24	26.85	1.60	青灰色 (暗褐色)	シルト混り細砂	上部10cm程度の腐植 土質粘土層挟み又 以下全般に10%~ 30%程度の層でレンズ 状に挟み不均質。	緩 中		11.75	15/30	4	5	6							
25					上部凝灰質の砂 (浮石)混えり。 細砂粗砂混えり	中 極密		12.15	26/30	6	10	10							
26								12.45	50/30	16	16	8							
27								12.75											
28								13.15											
29	29.05	2.20						13.45											
30								13.75											

31						細砂粗砂混える。 極密な状態である。	30.45											
32							31.15	50/23	16	23	11/3							
33							31.38											
34				暗灰色	中砂		32.15	50/22	17	24	9/2							
35							32.37											
36							33.15	50/22	16	25	9/2							
37							33.37											
38							34.15	50/21	19	26	5/1							
39	38.95	9.90					34.36											
40							35.15	50/22	17	25	8/2							
							35.37	50/18	20	30								
							36.15											
							36.33											
							37.15	50/21	19	29	2/1							
							37.36											
							38.15	50/13	35	15/13								
							38.28											
							39.15	38/30	7	14	17							
							39.45											
							40.15	20/30	6	7	7							
							40.45											

(註) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎-2 貫入試験機による試料
- 3 コア試料

2. 試料採取深度と回収比

$\frac{3.20}{45}$	3.20--3.70 は試料採取深度 (m)
$\frac{50}{3.70}$	$\frac{45}{50}$ は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)

3. 標準貫入試験の項で10cm毎の打撃回数とは最初の10cm貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしめたものである。



31				黄灰色	シルト混り細~中砂	全般にシルト含む。下部風化が著しくシルト化のため多くなる。 粗砂小礫混える。極密な状態である。	30.33			
32							31.15	50/15	25	15
33	33.75	4.80					31.30			
34				茶黄灰色		全般に風化しシルト化しているもの混える。	32.15	50/16	26	16
35							32.31			
36							33.15	50/30	10	18 22
37							33.45			
38				暗茶灰色	シルト質細砂	37.00~39.00m付近中砂層挟む。	34.15	50/11	40	10 11
39							34.26			
40						極密な状態である。	35.15	50/18	23	18
41	41.30	7.55					35.33			
42							36.15	50/18	21	18
43				暗茶灰色	細砂	全般に少量のシルト含む。均質で極密。	36.33			
44							37.15	50/16	25	16
45							37.31			
46	46.25	4.95					38.15	50/16	26	16
47				暗青灰色		全般にシルト少量混える。上部微細砂多く混える。貝殻全般に混える。極密な状態である。	38.31			
48							39.15	50/19	20	19
49				茶黄灰色			39.34			
50	50.20	4.05					40.15	50/15	25	15
							40.30			
							41.15	50/18	19	19
							41.34			
							42.15	50/19	50	19
							42.24			
							43.15	50/5	50	15
							43.20			
							44.15	50/12	40	12
							44.27			
							45.15	50/12	45	12
							45.27			
							46.15	50/12	39	12
							46.27			
							47.15	50/12	40	12
							47.27			
							48.15	50/11	41	11
							48.26			
							49.15	50/9	50	19
							49.24			
							50.15	50/5	50	15
							50.20			

(註) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- ◎-2 貫入試験機による試料
- 3 コア-試料

2. 試料採取深度と回収比

3.20	45	3.20-3.70 は試料採取深度 (m)
3.70		
45	50	45/50 は回収比 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)
50		

3. 標準貫入試験の項で10cm毎の打撃回数とは最初の10cm貫入に要した打撃回数, 10cm~20cmの間で要した打撃回数, 20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしめたものである。